

(電子メール施行)
農技第1318号
平成30年9月20日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予報第5号を發表します。

平成30年度病害虫発生予報 第5号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
	トビイロウンカ	やや少	やや少
ダイズ	立枯性病害	やや多	平年並
	べと病	平年並	やや少
	紫斑病	やや少	少
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	平年並	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	シロイチモジヨトウ	やや多 (一部地域で多)	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(9月15日から10月14日までの天候見通し)

平成30年9月13日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

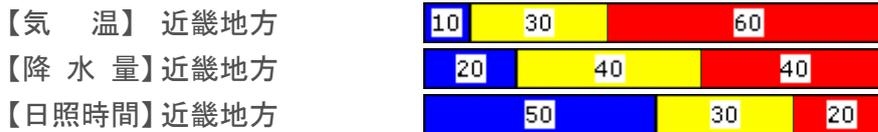
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。

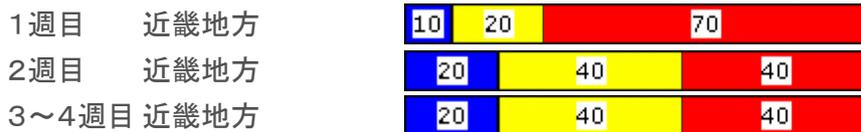
週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 9月15日(土)～10月14日(日)
- 1週目 : 9月15日(土)～ 9月21日(金)
- 2週目 : 9月22日(土)～ 9月28日(金)
- 3～4週目 : 9月29日(土)～10月12日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】(穂いもち)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では発生は認めていないが、現地調査では、発生ほ場率1.4%(昨年値2.4%)とやや少ない発生であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～多い、日照時間も少ないと予想されており、本病の発病に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると予想される。

2 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では、払い落とし調査で成幼虫27頭/10株(平年値30.1頭)と平年並であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く推移すると予想されているが、本種の発生最盛期を過ぎることから、イネ収穫時まで現状で推移すると考えられる。

3 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の予察ほ場では発生が確認されておらず、現地調査では発生ほ場率3.8%(前年値5.4%)とやや少なかった。

イ 今年度は飛来個体が少なかったと考えられ、坪枯れが発生する可能性は低い。

ダイズ

1 【立枯性病害】(茎疫病、黒根腐病)

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では発病は認めていないが、現地調査では発生ほ場率25.0%(前年値17.4%)と平年並の発生であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～多い、日照時間も少ないと予想されており、土壌水分が高くなることから本病の発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本病の発病は排水不良で助長されるため、排水対策等のほ場管理に努める。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

2 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では発病は認めていないが、現地調査では発生ほ場率6.3%(前年値21.7%)とやや少ない発生であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～多い、日照時間も少ないと予想されており、本病の発病は降雨により助長され、平年並の発生になると考えられる。

3 【紫斑病】

(1) 予報の内容

発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場および現地調査では発病は認めていない。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～多い、日照時間も少ないと予想されており、本病の発病は助長されると考えられる。

4 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では、イチモンジカメムシが2頭/10株(平年値1.4頭)と平年並であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の発生量がやや多くなると考えられるので注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

5 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では幼虫5頭(平年値1.0頭)と多かったが、白変葉の発生は認めていない。現地ほ場では、白変葉は発生ほ場率6.3%(前年値17.4%)と少ないものの認められている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続き、生態的には、密度増加期を迎えていることから、葉や莢へ食害が増加すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 幼虫の食害による白変葉が確認されたら防除を行なう。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並**

(2) 予報の根拠

ア 誘致植物のクレオメの調査では、9月第1週の幼虫寄生シュート(花枝)率は16%(平年値19.6%)と平年並であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、今後栽培される野菜類(アブラナ科)では、しばらく発生が続くと考えられる。

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数は8月下旬以降に急増しており、加西市では9月1半旬に362.2頭(平年値243頭)、南あわじ市では48.1頭(平年値19.9頭)とやや多い。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、秋作の野菜類では注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：**やや多(一部地域で多)**

(2) 予報の根拠

ア 既に8月21日付け病虫害発生予察防除情報第3号※、ならびに9月12日付け病虫害発生予察注意報第1号※を公表しているところであり、加西市の8月4～6半旬のフェロモントラップ誘殺数は58.9頭(平年値45頭)とやや多い。淡路地域での誘殺数は506頭と前年の多発年の279頭と比べて約1.8倍多くなっている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的にも発生最盛期を迎えていることから、秋作の野菜・花き類の植栽に伴って被害が拡大すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。中・老齢幼虫

に対しては薬剤が効きにくくなるので、薬剤防除はできるだけ若齢幼虫期に行なう。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、育苗中及び定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

※この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)

果樹共通

1 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア カメムシ類は、園地への飛来が多い年(表年)と少ない年(裏年)を隔年で繰り返す傾向があり、本年は表年に該当する。加西市のフェロモントラップ調査では、8月4半旬～9月2半旬のチャバネアオカメムシの合計誘殺数は37.8頭(表年平年値31.2頭)と平年並であった。

イ チャバネアオカメムシのほか、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの発生は最盛期を過ぎているものの、今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、カメムシ類の活動に好適な条件になると考えられるので、果実の被害に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 果樹園での飛来状況に注意し、飛来を確認したら直ちに薬剤散布を行なう。有袋栽培であっても、果実が肥大して袋に接すると加害されやすくなるため、的確な薬剤散布を行なう。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)